

# あいさつ

本校では昨年、従前からの研究テーマ「豊かな心と生活をめざして」を頭にいただいた5回目の教育課程を編成した。そこでは「かかわり合い（ひと、もの、社会、自然）」と「その子らしさ」を大事にすること、そして指導の個別的対応とあわせて「集団での学び」を大切にしてきたことも確認してきた。

しかしながら教育課程と一体ともいえるべきいわゆる学習活動において、問題、課題は山積みといってよい状況といえる。常日頃、子どもを大事にし、支援しているといっても、子ども達が学校生活、学習活動において、戸惑いや混乱を見せること、いかえれば子ども達が動けない、理解できない、見通しが持てない、コミュニケーションがとれないといった状況を少なからず目にしてきた。

今年度は教育現場であればごくごくあたり前、根本的ともいえるこうした問題について研究テーマとして受け止めてみることにした。各学部で取り上げる内容、観点は違うが、「わかる」という視点での授業研究（授業実践と反省・討議の積み重ね）を中心にすすめてきた。いささか地味、かたいといってもいいテーマだが、このことが子どもの確かな歩み、自立につながることに、保護者の期待に応えること、そして教師の力量向上に直結することなどを確信、期待したい。

皆様方の率直なご意見ご批判をいただければ幸いです。

平成15年2月

金沢大学教育学部附属養護学校

校長 齋藤和夫